

2016年3月期第2四半期決算説明会 主な質疑応答

Q1：下期計画の営業利益は上振れ余地あるか。

A1：上期は生産活動が非常に活発で経費を吸収し、営業利益を押し上げた。下期に関しては対象市場環境が不透明であるため、現状想定される予測のもとに計画値を算出している。

Q2：ウェブ事業は下期以降も第2四半期並みの売上高が続くと見ているか。

A2：ウェブ事業は景気の影響を受けやすく業績に波があるため、現時点でその判断は難しい。

Q3：液晶、電池関連の今後の需要見通しはどうか。

A3：液晶関係については、景気に敏感な業界でもあるため、好調だった第2四半期の状況が下期も継続していくかは不透明だと考えている。電池関係については、当社が得意分野としている自動車業界の設備投資がまだ活発ではなく、本格拡大にはもう少し時間がかかると考えている。

Q4：軟包装市場は具体的にどのような用途向けに開拓するのか。

A4：食品関連市場。パッケージの検査や絵柄に合わせて搬送位置を制御する新製品などで開拓を狙う。

Q5：プロセス事業の国内老朽設備更新需要はいつまで続くと見ているか。

A5：今後数年は継続すると見ている。

Q6：将来の成長はサービスの比率を高めていくことで実現するとのことだが、具体的にどう実現するのか。また、収益全体に占めるサービス収益の現状と目標の具体的な比率はあるか。

A6：プロセス事業の環境が決して良くない中でも着実に売上高と収益性を高めることができているのはサービスの質を高めた結果。プロセス事業と同様なやり方を他の事業にも展開していくことで全体の売上と収益性を押し上げる一つの原動力として、今後は全セグメントでサービスの質を高めていくことを考えている。具体的な数値については、実際、サービスの提供から派生する製品や部品まで含めると明確に切り分けて算出するのは難しい。ご容赦いただきたい。

以上